

荷姿の物を起因物とする飛来・落下の死亡災害発生事例（1999-2021年）

発生年	発生月	発生時間	死傷災害発生事例	小業種コード	労働者規模
2021	6	10 ～ 12	被災者が3段に積まれていた金杵（重さ822kg）の最上段のものを、天井クレーン（2.8t）で吊り上げて移動させようとしたところ、積まれていた場所付近（高さ約1.7m）から落下し、被災者が下敷きとなり死亡した。単独作業であり、災害発生時の状況については不明な部分あり。	11002	50 ～ 99
2021	6	8 ～ 10	鉄板の出荷にあたり、被災者Aが天井クレーン（つり上げ荷重5.042t、吊り具：ハッカー）を操作して鉄板をつり上げ、その鉄板の脇で被災者Bが作業していたところ、何らかの理由で被災者Bが倒れた際に鉄板が被災者らに落下し、被災者Bが死亡し、飛散した鉄板により、被災者Aも重傷した。	80109	10 ～ 29
2021	7	4 ～ 6	郵便局の到着ホームにおいて、4tトラックの荷室から約500キログラムのコールドロールボックス（以下「CRB」という）を卸す際、事業場の既設油圧リフトを上昇させずに作業を行ったため、CRBが被災者の上半身に被る形で地面に落下し、被災者が下敷きになったもの。	40301	10 ～ 29
2021	11	10 ～ 12	保冷倉庫の金属製扉を自社製造の新品に交換するため出張作業中、外した古い扉（3.36m×3.17m×0.13m、重さ約350kg）を積載形トラッククレーンに積もうと、同車のクレーンで吊上げ旋回中、玉掛けロープをかけていた扉部材（ピン止め金具）が外れ、扉が落下した。被災者は玉掛け後、手で扉の揺れを抑えつつ歩行中、落下・接地して倒れてきた扉の下敷きになった。	11209	1～ 9
			重さ246トンの船底ブロックに機器類を積載した総重量約320トンの荷		

2020	9	12 ～ 14	を、塔形ジブクレーン 2 基の相吊りによって地上から約 1 5 メートルの高さまで吊り上げた際、当該ブロック上に積載していた重さ約 8 0 0 キログラムの金属製の水コシ器 1 基がブロックの側面から落下し、地上に置かれていた船舶用発電機への動力供給用配管の付近にて、関係者へ当該配管の耐圧試験方法を説明していた被災労働者に当たったもの。	11501	300 ～ 499
2020	12	18 ～ 20	被災者は、容器に入れた鶏糞をフォークリフトで運搬する作業を行っていたところ、鶏糞を運搬する鉄製の容器の下敷きになって死亡したもの。	70101	10 ～ 29
2019	2	14 ～ 16	運搬してきた電柱 1 4 本を営業所敷地内の資材置場に降ろすために、台付けワイヤーを緩めたところ、2 本の電柱が落下して被災者に激突した。	30301	50 ～ 99
2019	7	20 ～ 22	被災者は、P E T 製造工場において、つり上げ荷重 1 t の床上操作式天井クレーンを運転して、フレコンバッグに入った約 8 0 0 k g の P E T 製品の不良品を破碎したものをつり荷として原料ホッパーまで運搬して投入しようとしたところ、フレコンバッグのつり具に掛けるつり紐部分 4 本のうち 2 本が突然切れたため、落下した荷とホッパーの間に頸部を挟まれたもの。	10805	50 ～ 99
2019	7	8 ～ 10	トラックに積まれていた砂（約 0. 9 トン）が入っているフレキシブルコンテナ（フレコン）を移動式クレーンにより移動させようとしたところ、フレキシブルコンテナのつりベルトが切断し落下、下方にいた被災者がフレキシブルコンテナの下敷きになり死亡したもの。	30201	30 ～ 49
2019	8	14 ～ 16	伐倒作業を終了し、伐倒した木と掘り起こした木の根を搬出するため、グラップルを運転して木の根をトラックの側面から荷台に積み上げていたところ、重さ約 1 8 0 k g の木の根が約 3 m の高さから、積込作業箇所の反対側に転がり落ちた。その際、トラックの横を歩いていた作業員の背部に木の根が激突し、死亡したもの。	30209	1～ 9
		14	1 人でフォークリフトを使用して、玄米 1 0 8 0 k g の入ったパレット積み のフレキシブルコンテナの積み替え作業を行っていた被災者が、2 段積みの フレキシブルコンテナの上段が落下し、下敷きになっているところを同僚に		100

2019	9	～ 16	発見されたもの。落下したフレキシブルコンテナの下段のフレキシブルコンテナには穴が開いており、周辺には玄米が散乱し、近くにはガムテープがあった。	10109	～ 299
2019	10	10 ～ 12	災害発生地である事業場に所属する労働者がフォークリフトを用いて荷の積み替え作業を行っていたところ、荷の一つがバランスを崩し倒れそうになった。被災者はその荷を支えようとしたが支えきれず、荷の下敷きになり死亡したものの。	40301	30 ～ 49
2019	11	10 ～ 12	工場新築工事での鉄骨建方作業において、壁の鉄骨（長さ約11mの柱1本に長さ約6mの胴縁14本等を取付。）を地組し、その上に番線で束ねた壁材（折板。長さ7m、幅0.8m、18枚。計約540kg。）を置いていた。これをクローラークレーン2台で共吊りして立て起こし、被災者が地上側の玉掛シャックルを外したところ、鉄骨に固定されていなかった壁材が落下、被災者はその下敷きになった。	30209	1～ 9
2018	2	8 ～ 9	被災者は、鉄骨柱、鉄骨梁約9トン積み込んだトラックを運転し建設現場に搬入。当該鉄骨の荷下ろしは現場職員が行い、被災者はトラック付近で当該荷下ろし作業を見ていたところ、積荷の鉄骨梁が荷台から落ちて被災者に当たった。	40301	50 ～ 99
2018	2	8 ～ 9	シーツスタッカーと呼ばれる機械（約400kg）をフォークリフトで運搬し、トラックの荷台に載せる作業で、フォークリフトで同機械を持ち上げる途中にバランスを崩した同機械が落下し、付近にいた被災者がその下敷きになって死亡したものの。	11301	1～ 9
2018	4	16 ～ 17	被災者はコンクリート製品製造工場の製品置き場において、吊り上げ荷重2.93トンの車両積載型トラッククレーンをリモコンで操作し、コンクリート製品の荷台への荷積み作業を行っていたが、作業中、当該クレーンのジブが積み込む対象とは別のコンクリート製品（いわゆるU字溝）に衝突したのか、4段に積まれた製品の最上段の製品が落下し、下でクレーンを操作していた被災者に激突したものと推定される。	40301	10 ～ 29

2018	7	8 ～ 9	埠頭に接岸した船倉で、岸壁に設置したクローラクレーン（つり上げ荷重 1 5 0 t）を用いて 7 本組にした H 型鋼（1 本の長さ 6 m、重さ 8 5 キロ）を 3 束にまとめて荷揚げ作業中、吊上げていた鋼材が落下し、吊荷の下にいた被災者に当たり死亡した。	50201	100 ～ 299
2018	9	2 ～ 3	鉄骨造地下 1 階、地上 8 階建てビル新築工事現場において、トラックの荷台で外壁材（外壁パネル、長さ 4. 3 m×幅 0. 7～0. 9 m×厚さ 0. 0 6 m）を 7 枚玉掛し、移動式クレーンで約 1 5 m 吊り上げ、旋回していたところ、吊り荷の下 4 枚の外壁材が割れ、ケヤキの木に落下し、落下位置から約 6 m 離れた被災者に飛散した破片が当たり、頭、顔から出血した状態で倒れている被災者を発見した。	30201	1～ 9
2018	11	14 ～ 15	電柱の撤去作業中、電柱を 2 つに切断した後でそのうちの 1 方を建柱車の移動式クレーン機能を使って引き寄せる作業を行っていた。田の畔を乗り越えさせようとしたが、電柱が畔に引っ掛かってしまい、ショウレン（鋼鉄製の棒状の道具）を使って電柱の向きを変えようとした際に、被災者がバランスを崩して畔から深さ 6 0 センチメートルの水路に落下したところへ、移動させていた電柱が落下したため下敷きとなった。	30301	10 ～ 29
2017	1	10 ～ 11	配送先で、運搬してきた積荷のロール紙（約 6 0 0 k g × 2 本）をトラック荷台から降ろしていたが、2 本目を降ろそうと回転台に載せ 9 0 度回転させていたところ、ロール紙が転がり落ちかけていたため、被災者が自ら支えようとしてロール紙の下敷きになった。	40301	30 ～ 49
2017	7	10 ～ 11	推定 2. 8 t の床上操作式クレーンを用いて、鉄板（長さ 2 4 9 5 mm、幅 1 8 0 mm、厚さ 2. 3 mm）4 1 枚を、ベルトスリング 1 本で高さ約 1. 5 m の位置につり上げ走行させていた。クレーン走行中に鉄板が荷崩れを始め、荷を押さえていた被災者の顔にベルトスリングから外れた鉄板が激突し、飛ばされてコンクリート製地面に転倒した。	11209	10 ～ 29
		12	工場の敷地内で、建設工事の基礎に使用されるコンクリートパイル（直径 0. 5 m×長さ 1 3 m、重量約 3. 5 トン）をトラックの荷台に載せる作業をしていた。5 本目のパイルを荷台に載せ、パイルに掛けられたワイヤロー		1～

2017	8	～ 13	プをパイルから外し、クレーンのオペレータに合図をし、クレーンの巻き上げ及び走行が行われたが、ワイヤロープがパイルの先端の金具に引っ掛かり、落下したためパイルと地面の間に挟まれた。	40301	9
2017	12	18 ～ 19	被災者は、顧客先でフォークリフトの修理を行った後に引き続き点検を実施していた。右後輪の駆動部分にグリスアップを行っていたところ、被災者の後方に２段積みで置かれていた荷のうち、上段の１個（W＝１．２m、D＝０．８m、H＝１．４m、重量１トン）が落下し、被災者を直撃した。	80202	1～ 9
2017	12	12 ～ 13	荷主先でトラック（ウイング車）に荷を積み込む作業を被災者一人で行っていたところ、すでに積んでいた荷（７００kg弱）が、何らかの原因によりロールボックスパレットごとトラックの荷台から落下し、落下した荷の下敷きになったものと推定される。	40301	30 ～ 49
2016	1	7 ～ 8	トラックに積載していた荷物を下ろすため左側ウイング扉を開け、更に前方あおりを開けようとした際、荷台上のロールボックス１個（内容量約６００kg）が落下し、被災者の頭部等に直撃した。	40301	100 ～ 299
2015	1	5 ～ 6	トラック運転者の被災者は、目的地に到着後、同社従業員Ａの協力を得て、荷下ろし作業を開始した。トラック荷台には、銅板の束（長さ５m、幅２６cm、厚み１０cm、重量０．５t）がタテ４段（高さ６０cm）に積まれていた。Ａがフォークリフトを使って銅板の束を運搬していた際に、荷台上の銅板の束が荷崩れを起こし、地上へ落下。銅板２束（約１トン）が荷台そばに立っていた被災者に激突したものの。	40301	10 ～ 29
2015	12	13 ～ 14	荷待ちしていた被災者は、他車の荷台に積込中の巻取紙を固定するゴム製の歯止めが滑るのに気付く、同車の運転手とともに、荷台に背を向けて歯止めをコンクリート地面に擦り付けていた。このとき巻取紙は、別の歯止め１個と梃子棒で固定されていたが、何らかの理由で巻取紙が荷台から転がり落ち、被災者の背中から腰の辺りに当たったもの。巻取紙の重量は約８００kg、荷台の高さは約１．４mであった。	40301	10 ～ 29
			船体ブロック製造工場において、Ａは材料置場におかれた荷（１枚の鋼板の		

2015	7	8 ～ 9	上に約110枚の鋼板を重ねて乗せたもの）を、つりチェーンで玉掛けし、Bはジブクレーンで当該荷を運搬する作業を行っていた。Bが荷をつり上げ、クレーンを走行させて運搬し、クレーンのジブを左方向に旋回させながら荷を降下させた時、荷が高さ約11mの位置から落下、下方で荷の受入のため待機していた被災者Cの背部に鋼板が直撃し被災したものの。	11501	1～ 9
2015	4	8 ～ 9	オペレーターが22.5トン重機（アタッチメント：つかみ機）を使用し、バッカン内の金属製産業廃棄物を潰していたが、潰し作業が終了し、別の金属製産業廃棄物が入ったフレコンバックをつかむために、アームを上昇させ旋回しようとしたところ、バッカンがアタッチメントにはまったまま持ち上がった。この時、旋回範囲内で別のバッカンの金属製産業廃棄物を手作業で選別していた被災者の上にバッカンが落下し下敷きとなったもの。	11009	1～ 9
2015	3	7 ～ 8	公道において、トラックで運搬してきたコールドロールボックスの荷卸し作業を行っていた際に、1台のコールドロールボックスをトラックの荷台からテールゲートの上に移動させ、リモコン操作でテールゲートを下降させたところ、コールドロールボックスのキャスターのうち1輪が荷台の上に乗ったままの状態であったため、コールドロールボックスが傾いて倒れ、被災者がその下敷きになった。	40301	10 ～ 29
2014	1	16 ～ 17	建築工事現場にて、建築資材の配達のため、同僚とトラックの荷台から石膏ボードを下ろす作業中、荷台上の石膏ボードが崩れて落下し、その下敷きとなった。	80209	10 ～ 29
2014	2	10 ～ 11	被災者は、車載型小型移動式クレーンを使用し、発注のあったサイディングボードを現場に下す作業を1人で行っていたが、荷の下敷きになっているところを通行人に発見された。荷台上の荷の下部のパレットの内側に単管2本を通し、アイ付繊維スリング2本を玉掛けし、無線操作装置を使用してつり上げた際、荷が被災者に落下し、死亡したと思われる。	80102	10 ～ 29
2014	8	15 ～	アスファルト舗装材の入ったフレコンバックの廃棄作業中、フレコンバックの中身をトラクターショベルのバケットに移すため、フォークリフトでフレコンバックをつり上げ、その下に立入り、排出口の縛り紐を解こうとしたと	10909	1～

		16	ころ、フレコンバックの取っ手が切れ、被災者の上に落下し、下敷きになった。		9
2013	2	8 ～ 9	被災者は、保育間伐作業現場より荷（重量約10トンの木材）をトラック（最大積載量11600キログラム）で土場まで運送した。到着後、荷を地上に降ろすためトラック荷台にあるスタンションのアームの安全ピンを外す作業を行っていたところ、突然荷が落下し、下敷きとなった。	40301	1～ 9
2013	1	10 ～ 11	仮設道路を設置する作業において、覆工板（重さ約370kg）をドラグ・ショベルを用いて覆工板を吊り上げ、4t積みダンプ・トラックの荷台に積み込んだ直後、既に荷台に積んであった覆工板が傾き、荷台にいた被災者がバランスを崩して地上に墜落したところに、積んだ直後の覆工板が落下し、被災者を直撃した。	30106	50 ～ 99
2013	9	15 ～ 16	2階の壁にあったシステム型枠部材（重さ約170kg）を3階へ上げるため、被災者が玉掛けを行い、16トンラフタークレーンを用いてつり上げたところ、当該型枠部材をつり上げるため取り付けていた木製の横棧のくぎが抜け、ワイヤーロープのアイに通していただだけの棧木が当該横棧からすり抜け、当該型枠部材が約2.5メートル落下し、下にいた被災者を直撃した。	30201	1～ 9
2013	6	10 ～ 11	コンクリート製集水枡（重さ約1.3トン）をクレーン機能付ドラグショベル（つり上げ荷重2.9トン）でつり上げ、既に敷設していた集水枡の上に重ねようとしたところ、つり上げていた集水枡が落下し、被災者に激突した。玉掛けワイヤーを掛けていた箇所（厚さ4センチで内部に鉄筋が通されている）が破断し落下したものと推測される。	30199	100 ～ 299
2012	2	13 ～ 14	原材料をホッパーへ投入するため、つり上げ荷重が1tのクレーンのフックに、原材料の入ったフレコンバックのベルトを掛けて、フレコンバックからショベルローダーのバケットに原材料を移し替える作業を行っていたところ、当該フレコンバックのベルトが破断し、重量約850kgの当該フレコンバックが、被災者の上に落下した。	10909	30 ～ 49
			フォークリフトの爪にチェーンを巻きつけ、自動車のエンジン積み降ろし用		

2012	10	9 ～ 10	フックにチェーンのフックをかけ、解体中の自動車の車体前方部分を持ち上げていたところ、被災者が自動車の下部を確認した際、エンジン用フックが重みに耐えきれず変形して自動車が落下し、その自動車の下敷きになり死亡した。なお、当該作業方法は通常方法で不具合が生じたため、例外的に行った作業方法であった。	80109	1～ 9
2012	1	9 ～ 10	最大荷重3 t のフォークリフトで荷（古新聞をプレスしたもの）を3段の積み荷の上に積み上げようとしたところ、荷を3段積みの上段の荷に当ててしまい、上段の荷がずれしまった。積み荷の落下の危険があるため、積もうとした荷は一旦下ろし、付近で別の荷の手直し作業をしていたところ、上段の荷（約1 t）が落下し、作業者に激突した。	80109	1～ 9
2012	4	2 ～ 3	配達先の入口付近において、トラックから積荷を降ろす作業中、清涼飲料水を積んだカートラックを引っ張りながら後退していたところ、トラックの後部に装着されている昇降機から足を踏み外して墜落するとともにカートラックも落下し、下敷きになった。	40301	10 ～ 29
2011	10	8 ～ 7	幌つきトラック（積載荷重3.5 t）のあおりを下ろした荷台の側方から、保冷キャビネット（高さ179 cm×間口109 cm×奥行109 cm、重さ約380 kg、キャスター付き）を荷卸しする作業において、荷台側方（高さ105 cm）から落下した保冷キャビネットが被災者の後頭部に激突した。被災者は、地面に座り、前屈した状態で後頭部に保冷キャビネットが覆い被さった状態で発見された。	40301	1～ 9
2011	6	6 ～ 7	セミトレーラーの運転手が配送先工場内で荷ほどき中、頭部がセミトレーラーの荷台から落下した鋼管の下敷きとなり死亡したもの。	40301	10 ～ 29
2011	5	13 ～ 14	本件事業場の材木置き場で被災者がトラックから落下した木材の下敷きになっているところを通行人に発見された。被災者は一人で作業をおこなっていたため、木材の下敷きになったところを目撃したものはいない。現場の状況から被災者は運搬してきた木材をトラック荷台から降ろすため、荷掛け用ワイヤーロープを外そうと荷締機を取り外した際に、積荷の木材1本が落下	60209	10 ～ 29

			し、下敷きになったものと推測される。		
2011	10	18 ～ 19	地下2階に停車した3トントラックから、台車に積まれた重さ約700kgのベニヤ板を荷降ろしするために、同ベニヤ板を押してテールゲートリフターに移動させていたところ、誤って台車の車輪がテールゲートリフターから外れて台車ごとベニヤ板がずり落ち、テールゲートリフターの下に立っていた被災者に激突し、ベニヤ板の下敷きになり死亡したものの。	170209	10 ～ 29
2011	10	5 ～ 6	3tトラックに住宅用壁面パネルを積み、午前5時15分頃に営業所を出発し走行中、積み荷が崩れそうになったため、路肩に停車させ、積み直しを行おうとしたところ、積んであった積荷(400Kg)が被災者の頭部に落下し、負傷した。直ちに病院に搬送したが、午前8時15分に脳挫傷で死亡した。	40301	10 ～ 29
2010	12	10 ～ 11	卸売市場内の立体荷捌場建設工事現場において、緊結されたパネル(1t、35枚)をラフタークレーン(つり上げ荷重25t)で荷上げ中、地上から約11mの地点で、玉掛け用ワイヤーロープのフックに掛けられたナイロン製スリングのアイ部分が突然フックから外れたため荷崩れを起こし、トラックの荷台上で玉掛け作業のため手待ちしていた被災者の頭部に落下し、頭部骨折により翌日の未明に死亡したものの。	30201	1 ～ 9
2010	10	11 ～ 12	物流会社の倉庫内において、被災者が1人でフォークリフトのフォークにフレキシブルコンテナバッグ(1袋、豆炭状の「土状黒鉛」約1.2t)の吊り紐を掛けた状態でフレキシブルコンテナバッグの底面を手掻きナイフで裂き、内容物を取り出す作業を行っていたが、フレキシブルコンテナバッグに縫い付けられた吊り紐がちぎれ、内容物が被災者の頭上に落下し、半身が内容物に埋もれて死亡した。	80401	1 ～ 9
2010	10	9 ～ 10	3tトラックから荷を卸す作業中に、台車に積まれた状態の荷物(平台と呼ばれる組立式テーブルが15段、重量350kg)が、高さ約0.7mのトラックのリフターから転落し、側で控えていた被災者に直撃し、当該荷物の下敷きになったもの。トラックのリフターのストッパーと台車のストッパーを施していなかった。	170209	30 ～ 49
			玄米バラ受け施設において、農家がフレコンに入れた玄米をトラックで持ち		

2010	9	15 ～ 16	込み、被災者の同僚がテルハクレーン（つり上げ荷重2 t）を操作してトラックからつり上げ（玉掛は農家が実施）、荷受ホッパー上まで移動させ、被災者がフレコンの下のひもを解く作業をしていたところ、フレコンの2本ある吊りベルトのうち1本が経年劣化のため切断し、落下したフレコン（重量約750 kg）により荷受ホッパー周囲の鉄製囲いに被災者が押し付けられ死亡した。	170209	30 ～ 49
2010	8	13 ～ 14	橋梁のつり足場用部材（単管5 m×8本、合計重量108 kg）を、橋脚上の仮資材置き場（高さ約28 m）へ運ぶため、被災者が地上で部材とベビーホイスト（定格荷重180 kg）のフックにワイヤロープ2本を掛け、橋脚上のベビーホイスト運転者が高さ約27 m近くまで部材を巻き上げたところ、単管を結束していなかったため荷が崩れ、単管が荷の下にいた被災者の頭部に落下し負傷したもの。すぐに病院に運ばれたが3日後に死亡した。	30105	1～ 9
2010	4	5 ～ 6	営業所の倉庫内で、トラック荷台の後ろに飲料水等の荷物が積まれた手押し台車の下敷きになって死亡している被災者を従業員が発見したものである。荷降ろし作業中に誤って、台車の下敷きになったとみられる。	50101	100 ～ 299
2010	2	17 ～ 18	構内において、トラックの荷台からケーブルドラム2個（1個当たり；重さ約840 kg、直径1.1 m）を同時に荷降ろしする際、運転者がフォークリフトを用いて荷を揚げたところ、フォークの爪に載り切れなかった奥側のケーブルドラムが落下しそうになったため、荷台の反対側でラッシングベルトを外していた被災者（トラック運転手）が、咄嗟に手で支えようしたが、支えきれずケーブルドラムの下敷きとなり即死したもの。	40301	30 ～ 49
2010	2	9 ～ 10	フラフ燃料（紙くず、繊維くず、廃プラスチックをフィルム状に破碎し燃料化したもの）製造工程において、原料（廃プラスチック）をはい積みしていた近くで清掃作業中の被災者に、はい（1.2 m×1.2 m×0.9 m、重さ340 kg）2個が落下し、当たったもの。	150102	10 ～ 29
2009	7	8 ～ 9	被災者が当該事業場に配送されたトラックの荷台の留め具を外したところ、あおりにもたれかかっていた荷物（紙ロール270kg）が落下した。この荷物が被災者の身体に当たり、被災者はそのまま仰向けに倒れこみ被災した。	40301	10 ～ 29

2009	3	10 ～ 11	倉庫において、タイヤの原料となる粉状のカーボンブラックの入ったフレコンバック（高さ1.5m、直径1m、重さ600kg）の搬入作業中、2段積みしたフレコンバックの上段が崩れ落ち、同フレコンバックの下敷きになった。	40301	50 ～ 99
2009	1	9 ～ 10	被災者は単独で、貨物自動車荷台上の重さ1.0126tのロール紙を、納入のために転がす等の作業を荷台上で行っていた。被災者は体勢を崩したか、あるいは想定外の外力を受けて荷台から墜落し、墜落した被災者の上に、ロール紙が落下してきて被災した。	40301	10 ～ 29
2008	9	9 ～ 10	工事現場内の管理棟において、運送会社の運転手が、15tトラックに積載された鉄骨柱(重量3.5t、長さ約10m、44cm×44cm)を固定したチェーンを解く作業を行うためトラックの荷台付近にいたところ、荷台から落下した鉄骨柱の下敷きとなり死亡した。	30201	10 ～ 29
2008	5	12 ～ 13	自社倉庫内において、4tトラックの荷台から8台のキャスター付きコンテナ（1台約400kg）を降ろす作業中、荷台左側の3台のコンテナを降ろした後、被災者が右側の荷台のあおりを下ろした際、コンテナの重みで荷台が右側に傾いていたためにコンテナが荷台から落下して被災者に当たった。	40301	30 ～ 49
2008	8	17 ～ 18	店舗の外壁用のガラスパネルをトラック上に2人一組で天井クレーンで、専用のつり具を用いて積み込もうとして地切りした後、移動させ始めた際、荷が振れ、その上端部が天井クレーンのレール下部のH鋼部にあたり、長さ81cm幅9cmの破片が落下して直下で作業していた被災者に突き刺さり死亡した。	30209	1～ 9
2008	4	8 ～ 9	工場内において3段に積んであった米袋（フレキシブルコンテナ、1袋約900kg）のうち最下段の袋が破れたため、一人でガムテープで補修していたところ、2段目と3段目の袋が崩れて2段目の袋の下敷きになり死亡した。	10103	10 ～ 29
2008	1	10 ～ 11	トラックの荷台からロールボックスをフォークリフトで下ろす作業中に、ロールボックスをフォークリフトでつり上げたまま被災者がフォークリフトから降りた後、ロールボックスの横に置かれたクールボックスがトラックの荷台から落ちて、被災者がその下敷きとなり死亡した。クールボックスは重さ336kgでキャスター4輪がついていた。また、荷台後部の荷物落下防止用ストッパーが荷台上にはあったが使用されていなかった。	40301	50 ～ 99

2008	9	16 ～ 17	排水中和用消石灰のフレコンバック（1t入）を精鉱倉庫から排水処理の消石灰倉庫へフォークリフトを用いて、運搬作業中に発生した。2名の作業員で14袋の運搬作業をしていたが、フォークリフト運転者が戻ってこないのもう1人の作業員が様子を見に消石灰倉庫へ行ったところ、フレコンバックの下敷きになっている被災者を発見した。	10809	100 ～ 299
2008	6	8 ～ 9	ヒューム管（約1.5t、長さ4m、径600mm）を小型移動式クレーンの荷台中央にフォークリフトで積み込んだ後、人力で荷台奥側（進行方向右側）に回転させながら移動したところ、荷台が傾きヒューム管が落下しそうになった。被災者はこのヒューム管が落下する前に荷台から地上に降りたところ、ヒューム管と地面の間にはさまれた。	40302	1～ 9
2007	11	16 ～ 17	直径1800mm厚さ90mmのスリットコイル（重量約1.5t／個）2個の内円部上端にフォークリフト（7t）の爪先端部を掛けて移動し、仮置きするため倉庫の壁に立て掛けたところ、爪を抜く際にコイルの内端部（芯部）が引っかかり手前に解けたため、手前の1個を再び爪先端ですくい上げて後退し、下車した被災者が、先に降ろしたコイルの芯部を巻き直そうとしたところ、爪から外れたコイルが被災者に落下した。	50202	10 ～ 29
2007	5	10 ～ 11	配達先でトラック（最大積載量3,750kg）から積荷の鋼材の束（長さ約5.5m、重さ約300kg）を降ろす作業中、他の作業員があおりを降ろそうとしたところ、あおりの降下とともに荷台から鋼材の束が落下し、あおりに手をかけていた被災者が鋼材の束の下敷きとなった。	40301	1～ 9
2007	10	14 ～ 15	被災者はトレーラーに積載されたコンテナ内部で積荷（木製杭1束10本、約6.5kg）をパレット上に合計70束（パレット重量を含め500～600kg）移し替え、一人で積荷をパレットごと搬送ローラー（非駆動）でコンテナ後方に移動し、荷卸しするため地上で待機中のフォークリフト運転手に声を掛けたが不在であり、地上に降りたところ、パレットと積荷が落下して下敷きとなった。	50101	10 ～ 29
		21	構内にあったコンテナをトレーラーに積み込むため、構内貨物取扱業者の作		100

2007	10	～ 22	業者がフォークリフトを運転し同コンテナを持ち上げたところ、隣に置いてあった２段積みコンテナの上部の空のコンテナが落下し、積み込み予定の同コンテナに封印環を取り付けようとしていた被災者に激突した。	40301	～ 299
2006	11	0 ～ 1	溶接の仮付け作業を行っていた際、仮付けする鉄板が浮いていた為、クレーンに重り（上３．５ｔ、下５．０ｔ）を吊り、浮き上がり箇所に重りを下ろしたところ、重りが傾き上の重りが滑り鉄板の状況を見ていた被災者の上に落ちた。	11301	1～ 9
2006	10	9 ～ 10	被災者は４トントラックに空パレット（金属製：８５キロ）を２６個積み、午前９時すぎ、目的地に到着した。既に別のトラックが規定の場所で荷卸作業をしていたため、直前の通路にトラックを駐車し、ここで荷卸作業を開始した。フォークリフトは同僚が運転し、被災者は荷卸している荷台の反対側にいたところ、フォークリフト作業の影響で被災者側の一列（１０個）が落下し、被災者を直撃した。	40301	50 ～ 99
2006	9	10 ～ 11	リーチフォークリフト（１．５トン）で、屋外紙置き場に２列４段で積まれていた用紙の束（高さ９０センチ、幅１２６センチ、奥行８０センチ、重さ約１．１トン）を工場内の所定の場所へ移動する作業の工程で荷が崩れ、荷卸し補助作業中の被災者が荷の下敷きになりった。	10701	10 ～ 29
2006	5	9 ～ 10	構内において、手前に２段の荷（木材）の上段を一束取ろうとしてフォークリフトの爪を入れて持ち上げ、後方に下がったところ、後列に積んであった荷が崩れ、隣で検品していた被災者に当たった。	50101	1～ 9
2006	2	18 ～ 19	資材倉庫内にてフォークリフトを用いて電線ドラムを運搬する作業に従事していた被災者が、フォークリフト脇に倒れているのを発見された。	11601	300 ～ 499
2005	1	10 ～ 11	製品ヤードにおいて、フォークリフトで積み重ねたヒューム管（直径60cm）の歯止めを行うため、ヒューム管からフォークリフトのフォークを外した後、フォークリフトから降りてヒューム管積上げ場所とロット積上げ場所との間に入ったところ、歯止めを行っていないヒューム管が落下し、激突した。	10901	30 ～ 49

2005	12	17 ～ 18	搬入先の事業場構内において、運んできた積荷がフォークリフトで荷降ろしされている様子をトラックの傍に立って見ていたところ、荷が動き出したため、近寄って支えようとしたが支えきれず、そのまま荷台から落ちてきた荷の下敷きとなった。	40301	30 ～ 49
2005	11	17 ～ 18	金庫（重さ340kg）を下ろす作業を作業員3人で行っていたところ、階段の踊り場まで下ろした金庫が、被災者とともに転落した。	80204	1～ 9
2005	8	10 ～ 11	トラックからショーウィンドー用のガラスを取り出し、現場の作業員が台車に乗せて運んでいたところ、トラック荷台の梱包された荷が倒れ、被災者が下敷きとなった。	40301	30 ～ 49
2005	12	11 ～ 12	梁鉄骨搬入のため、トレーラートラックの荷台からクローラクレーンで梁鉄骨を荷降ろししている際、梁鉄骨が荷崩れ・落下し、被災者が下敷きとなった。	30201	10 ～ 29
2005	11	10 ～ 11	フレキシブルコンテナ（フレコン）に入った樹脂製ペレット（重さ400kg）を小分けするために、フォークリフトでフレコンをつり上げ、フレコン下の取出し口から小分け袋に取り出そうと作業をしていたところ、フレコンのつり上げ紐の片方の縫い目が切れたため、荷が揺れて被災者の上に落下した。	10805	1～ 9
2004	3	14 ～ 15	休止中の反応器の配管工事のため、足場材を移動式クレーン（つり上げ荷重45 t）で反応器の2階床につり込んでいたところ、つり荷につけてあった介錯ロープ（長さ7.9m）が既に組んであった反応器の足場に引っかかり、荷が傾き足場材が落下し、作業中の被災者に激突した。	30302	1～ 9
2004	4	23 ～ 24	ペレット入りの1 tのフレコン（ナイロン製の袋状のコンテナ）を2段に重ね、その上に25kgの紙袋を重ねてあったが、下段のフレコンが破れ中のペレットが流出し、バランスが崩れて上段のフレコンおよび紙袋が落下、被災者が下敷きとなった。	10805	100 ～ 299
2004	5	10 ～	工場内に4段積みされた圧縮梱包古紙（1個あたり100cm×170cm×110cm：重さ840kg）をフォークリフト（アタッチメントはクランプ）で2個トラック	80109	1～

		11	に運搬したところ、運搬した古紙の隣に積んであった古紙2個が崩れ落ちて、そのうち1個が近くで古紙の仕分け作業を行っていた被災者を直撃した。		9
2004	8	11 ～ 12	トラックを運転して搬入した荷台上のパルプ54個（1個約200kg）を、別事業場の労働者1名がクランプ式フォークリフトで荷下ろし作業中、トラック車体を挟んで荷下ろし側と反対側に、トラックを運転して来た被災者が倒れているのが発見された。	40301	10 ～ 29
2004	3	14 ～ 15	フォークリフトにより荷の積み込み作業を行っていたところ、フォークリフト上の荷が崩れ、一時運転席を離れて、フォークリフトの近くにいた被災者に落下した。	50101	1～ 9
2004	8	13 ～ 14	トラックに積まれたドラム缶（重量約200kg）を、荷台からトラック横に付けたフォークリフトのパレットに載せて降ろす作業を行っていた際に、いったんパレットに載せたドラム缶の位置を被災者がずらそうとした時に、そのドラム缶とともに地面に墜落し、ドラム缶の下敷きになった。	40301	50 ～ 99
2004	8	10 ～ 11	米菓の入った1個重さ約590kgの製品充填タンク（鉄製タンク）8個を1 t フォークリフトを使って、10 t 大型トラックに積み込んでいたが、7番目の製品充填タンクの位置が悪かったため、フォークリフトを降り、直そうと近づいた際、高さ1.2mの荷台から製品充填タンクが落下し、被災者が下敷きになった。	40301	100 ～ 299
2004	3	8 ～ 9	ビル新築工事現場にて3階床の型枠材料のベニヤ板約70枚を道路上の車両積載形トラッククレーンの荷台からクレーンで外部足場上に荷上げしていたときに荷崩れを起こし、ベニヤ板とともに足場上で荷上げの補助をしていた作業者が2.06m下の軀（く）体2階床上に墜落した。その際、2階床上で作業していた被災者に墜落した作業者と数枚のベニヤ板がぶつかった。	30201	1～ 9
2004	7	14 ～ 15	コンパネ材をトレーラーに積み直す作業で、繊維ロープをほどいていたところ、荷が落下して下敷きになった。	40301	10 ～ 29
		13	鋳物工場において、鋳型（上型と下型）にアーク溶接で金属プレートを固定して2台の天井クレーンで約1.7mの高さまでつり上げ、その下で木型の固定		30

2003	11	～ 14	ボルトを取り外す作業を行っていたときに、約3.8tの鋳型（下型）が落下し下敷きになった。	11002	～ 49
2003	10	10 ～ 11	屋根を補修する他の作業員を屋根に上がらせるため、フォークリフトのタッチメント（クランプ）で荷（古紙等を縦220cm、横100cm、厚さ110cmに束ねたもの、重さ1020kg）をはさんでその上に作業員を乗せて上昇させ、そのままの状態 で運転を止めて荷の下で側壁の補修作業を行っていたときに、荷が突然落下しその下敷きとなった。	150103	1～ 9
2003	9	10 ～ 11	重さ約300kgの鉄骨1本（角柱状）にビニールシートを巻いてスリング2本で玉掛けし、20t移動式クレーンで建物屋上の部品置場に上げようとしたときに、シートから鉄骨が滑り落ちて下にいた者の頭部を直撃した。	30199	30 ～ 49
2003	7	17 ～ 18	工場前で屈んで休息していたときに、目の前で運送会社の運転手がフォークリフトでパレット上に2段に積み上げられた箱（幅26×奥行26×高さ46cm、重さ28kg、上段7個下段9個）を2tトラックの荷台に積み替え始め、箱が最後の上下2個になったときに荷崩れが生じたので箱の下段を押さえたところへ、上段の箱が落下してきて後頭部に当たった。	10609	1～ 9
2003	6	13 ～ 14	工場の中2階に置いてあった鉄筋（質量734kg、番線結束）をトラックに積み込むため、天井クレーン（つり上げ荷重2.8t）でつり上げたときに、つり上げた荷の付近にあった鉄筋（質量231kg、番線結束）がバランスをくずして中2階の開口部から1階に落下し、開口部の直下に置いてあった鉄筋を曲げる機械に当ってはね作業中の者の腹部に当たった。	11209	30 ～ 49
2003	6	13 ～ 14	産業廃棄物集積所に使用済み配管を捨てに来て廃材等を整理していたところ、フォークリフト（最大荷重2.4t）が切削屑を入れるための鋼製箱（切削屑は入っておらず空き箱、重さ約300kg）を地上186cmまでフォークを上げて走行してきて、人がいることに気づいてフォークリフトのブレーキを踏んだときに、鋼製箱がフォークから抜け落ちて激突された。	11502	300 ～
2003	2	6 ～	石膏ボードをトレーラーに積込んで到着し、石膏ボードを搬出するため、片側のウイングとアオリを開けた途端、石膏ボード約120枚（6kg）が落下し下	40302	1～ 9

		7	敷きになった。		
2003	1	11 ～ 12	メッキ工場で、長さ10.5mのH鋼（質量250kg）2本をフォークリフトで搬送していたところ、敷地内の側溝の蓋上でH鋼2本が落下し、付近にいた作業者の背中に当たった。	11204	10 ～ 29
2002	11	10 ～ 11	積荷の枕木を降ろす準備のため、トレーラー荷台上の枕木の荷締め具を取外したのち地上に降りてアオリを開けようとしたときに、積載枕木の端部にあった2本（1本当たり質量60kg）がアオリの内側に落下し、その衝撃でアオリが開いて頭に激突した。	40301	10 ～ 29
2002	12	16 ～ 17	印刷用ロール紙（高さ765mm×直径1085mm、質量405kg）をトラックから自動倉庫の搬入口にフォークリフトで搬入中、印刷用ロール紙の搬入口へのセットが完全では無かったたのでその状況を確認、調整に行ったときに、高さ約1.5mの搬入口から落下した印刷用ロール紙の下敷きになった。	50101	10 ～ 29
2002	11	16 ～ 17	増改築工事において、積載型トラッククレーン（2.93 t）でトラックの荷台から高さ3.7mまで吊上げた鉄筋（直径1.3mm×長さ2,6m×本数27本、質量71.2kg）を2階へ取り込むためブームを旋回させたところ、吊上げていた荷のバランスが崩れて落下し、トラック荷台上で次に運ぶ鉄筋を束ねていた者の頭部に落下した。	30201	50 ～ 99
2002	11	14 ～ 15	産業廃棄物（金属くず等）をフォークリフトで回収してダンプに積みフォークリフトをバックしたところ、フォークリフトの爪（高さ2.55m）から金属製コンテナ（112k g）が落下して胸に激突し、激突した衝撃で後ろに転倒した。	150102	1～ 9
2002	6	16 ～ 17	4tトラックでスクラップ品をスクラップ場まで運搬し荷を括っていたワイヤーをほどいたところ、スクラップ品の一つである車をトラックに載せて運ぶための荷台がトラックの荷台から落下し、その下敷きになった。	80109	1～ 9
2002	5	10 ～ 11	箱型トラックの荷台から荷の入ったコンビラック（質量約710kg）をリフトのストッパーの位置まで移動させて、ゲートを下げた途端にコンビラックがリフト後方に動き落下し、ゲート後方でコンビラックを支えていた者が下敷きになった。	80201	10 ～ 29

2002	6	8 ～ 9	邸宅の新築工事において、移動式クレーンで重ねあわせた壁面パネル8枚（質量0.7 t）を作業箇所に吊り上げているときに、壁面パネルが荷崩れして下の作業者を直撃した。	30202	1～ 9
2002	5	9 ～ 10	埠頭岸壁に接岸していた船の船倉から荷揚げした梱包された合板（縦185×横95×高さ125cm、質量約1.5 t）9梱包（3段×3列）を、岸壁においてフォークリフトを用いる荷さばき作業と同時並行して検品作業を行っていたところ、3段目の梱包された合板の一つが（高さ約2.7m）落下し検品作業を行っていた者が下敷きになった。	170209	10 ～ 29
2002	4	18 ～ 19	廃プラスチックによる成形材料（樹脂ペレット）製造工場で、製品置き場の2段積みのはい（荷姿コンテナバッグ、質量500kg）のうち、上段のコンテナバッグが荷崩れ（落下）し下敷きとなった。	10805	10 ～ 29
2002	3	16 ～ 17	福祉施設の新築工事で、屋根材（木毛板、1枚60kg）の荷（12枚、720kg）を屋根に上げる作業中、吊った荷のナイロンスリングが荷にビニールカバーが被せてあったため滑って荷がスリングから抜けて落下し、2名のうち1名が死亡した。	80209	30 ～ 49
2001	8	8 ～ 9	橋梁建設工事において、橋梁上部工内部に設置する円筒型枠(質量約280kg)を移動式クレーンで橋梁上部へ吊り上げているときワイヤーロープが外れ、地上で玉掛け作業をしていた者の頭部を直撃した。	30105	100 ～ 299
2001	11	16 ～ 17	シリコン粉の入った質量約1tの袋から粉を容器に移し替えるため、2.5tのクレーンで袋を宙吊りに吊り上げていたとき、袋を吊っていたベルトが切れたため、落下した袋と容器との間に挟まれた。	11101	300 ～ 499
2001	7	14 ～ 15	建設物装飾用の木型の製造で天井クレーンで木型を移動させていたときにナイロン製の帯で1本吊りをしていたため、途中で木型が落下し顔面に激突し、その反動で倒れ頭部を床に打ちつけた。	10409	1～ 9
2001	2	9 ～ 10	岸壁に接岸した船の第2ハッチの船倉内で、建築用材木の束を荷揚げするため材木にスリングを掛けて浮かそうとしたときに、隣の下2段は空段にして6段に積まれていた材木の束が滑り落ち、5、6段目の材木が直撃した。	50201	50 ～ 99

2000	1	8 ～ 9	倉庫に運び込まれたトラックのコンテナの右扉を開いたところ、荷造りされたパーム繊維の束、1束(質量150kg)が落下して顔面を直撃した。	11709	10 ～ 29
2000	7	15 ～ 16	コイルをクレーンで吊って移動させたときに、別のコイルと一緒に吊り上がりこのコイルが落下して撃突した。	11209	10 ～ 29
2000	1	2 ～ 3	本船に積むフラットコンテナをトレーラーからガントリークレーンで吊り上げたところ、フラットコンテナの四隅の取付部分のうち船首側の二箇所のみがロックされた状態で吊り上げられたため、フラットコンテナがトレーラーの前方に引きずられて落下し、トレーラーの運転席後部を直撃した。	50202	100 ～ 299
2000	2	0 ～ 1	10tトラックで圧延ロール(2. 794t)4本を運搬中、1本のロールのすわりが悪くなったためトラックの左前後輪を縁石に乗り上げた状態で停車し、ロールを固定するためレバースタックのレバーを締め直していたときにロールが落下して下敷きになった。	40301	10 ～ 29
2000	5	7 ～ 8	道路拡幅工事現場に伐倒木を受け取りに行き伐倒木の積み込み作業を行っているときに、荷台から伐倒木と共に墜落し伐倒木の下敷きとなった。	150102	30 ～ 49
1999	8	7 ～ 8	空コンテナ(重さ約1. 5t)を清掃するためサイドシフト付カウンタバランスフォークリフト(最大荷重12. 5t)で移動作業中、移動させるコンテナの上面左後部が左隣に2段積みしていたコンテナの上段底面右後部に接触していることに気付かないままリフトアップしながら後退させたため、上段のコンテナ落下し、清掃作業をしていた者がコンテナの下敷きになった。	50101	30 ～ 49
1999	8	14 ～ 15	埠頭に接岸した船から木材を移動式クレーン(つり上げ荷重50トン)で降ろす作業において、木材24本を一本吊りで吊り上げようとしたときに、木材の一本が中抜けして、船倉内で作業していた者の背中に激突した。	50202	300 ～ 499
1999	4	9 ～ 10	原料の受入設備で、フレコンバッグ入りの原料をホッパーへ投入するためテールハでフレコンバッグを吊り上げていたときに、フレコンバッグの繊維ベルトが切断したためフレコンバッグの下敷きとなった。	10904	50 ～ 99

1999	4	6 ～ 7	配送先で、4トントラックの荷台から2段積みの荷をフォークリフトで降ろす るために、荷を荷台の端に引き寄せていたときに、荷とともに約1メートル下 の地面に落下しその下敷きになった。	40301	30 ～ 49
1999	2	16 ～ 17	1. 下水道工事において、作業終了時にトラッククレーンの荷台に残った ヒューム管二本を隣接する資材置き場に戻すことになり、吊り金具等を荷台 に置いた後トラッククレーンを前進させたときに、荷台から落下したヒュー ム管の下敷きになった。	30110	1～ 9
1999	1	11 ～ 12	2階建てユニット住宅の2階フローリング床下に敷く防音材を移動式クレーン で吊り上げる作業で2階天井部に仮止めしていたランバー材2本のうち1本をず らして2階天井のランバー材間から入れているときに、荷がランバー材に触れ たため荷とともに1階まで落下した。	30202	300 ～

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202210_31.htmlに戻る。